

田坂広志の風を語る

第9回 「志ある人材」の育成こそが、地域のボランティア経済と目に見えない資本を活性化させる

「地方創生」を真に実現するためには、地域における「マネタリー経済」（貨幣経済）だけでなく、「ボランティア経済」を活性化し、「目に見えない資本」を豊かにしていかなければならない。では、そのための最も重要な取り組みは、何か？ それは、地域における「志ある人材」を育成することである。



田坂広志
Hiroshi Tasaka
1951年生。'74年東京大学卒業。'81年同大学院修了。工学博士。'87年米国バテル記念研究所客員研究員。'90年日本総合研究所設立参画。取締役等歴任。'00年多摩大学大学院教授就任。同年シンクタンク・ソフィアバンク設立。代表就任。'03年社会起業家フォーラム設立。代表就任。'08年世界経済フォーラム（ダボス会議）のGlobal Agenda Councilメンバー就任。'10年世界賢人会議Club of Budapest日本代表就任。'11年東日本大震災に伴い内閣官房参与就任。13年全国から2800名の経営者やリーダーが集まり「変革の知性」を学ぶ場、「田坂塾」を開塾。著書は80冊余。

V SOP運動の鍵は何か？

加藤 前回は、田坂先生が本誌で提唱された「V SOP運動」(Volunteer Service One day Project)が、未来の世代に「目に見えない価値を大切にする社会」を贈る「G I V I N Gプロジェクト」(Gift of Invisible Values In the society for the Next Generation)に進化し、日本青年会議所や公益資本主義推進協議会などが全国運動を開始したことを伺いました。このV SOP運動とは、地域の商店や企業が協力・協働して、毎月一日だけ、地域住民に貢献する無償のボランティア・サービスを提供する運動とのことですが、

先生は、この運動を全国各地で進めることによって、地域の「ボランティア経済」が活性化し、知識、関係、信頼、評判、共感、文化などの「目に見えない資本」が生まれ、広がっていくと言われています。そして、それが「マネタリー経済」も活性化していくということも述べられています。

V SOP運動が、地域に「志ある人材」を育てる

田坂 最も大切なことは、「志ある人材」を、それぞれの地域で育てることです。「この地域を、素晴らしい地域にしたい！」と本気で考え、行

動する人材を育てることです。また、そうした人材を、様々な形で支援することです。それによって、自然に、その地域の「ボランティア経済」は活性化し、「目に見えない資本」が豊かになっていきます。

日本青年会議所や公益資本主義推進協議会には、そうした人材が集まっていますね。

加藤 V SOP運動を推進するためにも、そうした人材が必要ですね。田坂 その通りです。ただ、逆に、そうした「志ある人材」を育成するために、このV SOP運動が必要なのですね。

加藤 その意味は？
田坂 「志」というものは、自然に、周りに広がっていくからです。誰か

が「この地域のために、本業を通じて、何かボランティア・サービスを提供しよう」と考え、周りの人にV SOP活動への協力を求めると、その周りの人もまた、「この地域を変えよう」との志を抱いて活動するようになります。なぜなら、実は誰もが、心の奥深くに、「ささやかなことでもよいから、世の中に貢献したい」という思いを持っているからです。

特に、そうした思いは、日本青年会議所の「青年経済人」と呼ばれる人々や、地域の中小企業の経営者の心の中には、根強くあります。

だから、V SOP運動のような、誰でも取り組める「身の丈サイズ」の社会貢献・地域貢献の運動を呼びかけることで、これらの「志ある人

材」が動き出し、それらの人材が、V SOP運動を通じて、さらに大きく成長していくのです。

「志」の周りに自然に集まる「目に見えない資本」

加藤 それが、その地域における「ボランティア経済」を活性化させていくという意味ですね。では、なぜ、これらの人材が育つことになって、「目に見えない資本」が豊かになっていくのでしょうか？

田坂 「志」の周りには、自然に「目に見えない資本」が生まれ、集まってくるからです。

例えば、一人の「志ある人材」が、「この地域を素晴らしい地域にした」と思ってV SOP活動を始める。その志と意思を持って周りの人々に声をかけると、直接的に手伝えなくとも、誰もが無償で知識や知恵を貸してくれるでしょう（知識資本）。さらには、そのV SOP活動に役に立つ人や組織を紹介してくれるでしょう（関係資本）。そして、思いを込め真摯に志を語るならば、相手からの信頼が生まれます（信頼資本）。また、そうした志ある活動は、周囲の人々に良い評判となって伝わっていく（評判資本）。加えて、こうした「志ある人材」が集まると、そこには共感の場とボランティアの文化

が生まれてくる（共感資本、文化資本）。

このように、「志ある人材」の周りには、自然に、知識、関係、信頼、評判、共感、文化といった「目に見えない資本」が生まれ、集まってくる。

加藤 なるほど。田坂先生が、V SOP運動を提唱されるのは、この運動を通じて、全国各地に「志ある人材」を育て、それによって、地域のボランティア経済と目に見えない資本を活性化させるためなのですね。

現在、具体的に、どのような動きが生まれていますか？

田坂 日本青年会議所が主導するV SOP運動だけでも、5月5日現在、全国で308件のプロジェクトが動いています。その中から、私に関わっているプロジェクトを二つ、紹介しましょう。

一つは、愛媛県の今治青年会議所が、サッカーチームのFC今治（運営主体・今治、夢スポーツ）と協働し、今治市や今治商工会議所の協力も得て進めている「バリ・チャレンジ・ユニバーシティ」です。

これは、愛媛県や広島県の高校

生や大学生1000名を集め、元サッカー日本代表監督の岡田武史氏を始め、アーティストの日比野克彦氏、建築家のエドワード鈴木氏など、日本を代表する各分野の有識者が講師を務める市民公開型大学です。

このユニバーシティでは、地域の活性化に取り組む若者たちの育成と、地域活性化の様々な新事業プロジェクトを生み出していきます。第1回のワークショップと市民公開型イベントは、来たる8月26日から3日間、今治で行われます。

また、私の地元、富士五湖青年会議所も、6月10日に「富士山のふもと」のまちが、なぜ日本一ではないのか」というテーマで、富士五湖フォーラムを開催し、これを皮切りに、俳優の伊勢谷友介氏が代表を務めるリバースプロジェクトや慶応大学などと協力し、地域活性化のV SOP運動を展開していきます。

そして、7月17日には、日本青年会議所主催のサマーコンファレンスがパシフィコ横浜で行われ、1万人を超える参加者に対し、全国のV SOP運動の成果を報告します。

加藤 いよいよV SOP運動を通じて、全国各地で「志ある人材」が動き始めているんですね。とても楽しみです。

RECOMMENDED BOOK

人間を磨く
人間関係が好転する「こころの技法」
(光文社刊)

我々は、非や欠点や未熟さを抱えたままでも、人生で出会う人や周りの人々と「良い関係」や「素晴らしい関係」を築いていくことができる……日々の仕事や生活において、「良い人間関係」を築くための「こころの技法」を、「7つの技法」として紹介。それらを通じて、「人間を磨く」ことの本当の意味を説く。



インタビュー
加藤晶子
Akiko Kato
(株)リクルート・キャリアを経て、キャリア・カウンセラーとして独立。20~30代の学生や社会人に1000人規模でのキャリア・カウンセリングを行う中で、働くことやキャリアについて人生の早期に考えることの重要性を痛感し、小学生向けのキャリア教育スクール、キッズイノベーション(Kids Innovation)を立ち上げる。最近では、この教育事業の代表を務める傍ら、子ども達の未来を見据え、社会や時代がどこに向かっているのか、様々な識者のインタビューを行っている。

※当連載は、姉妹紙『SOLAR JOURNAL (ソーラージャーナル)』で掲載していたものを、継続して掲載しています。